Teaching Portfolio 2025

第 34 回 佐賀大学 ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ

2025 年 3 月 17 日（月）～19 日（水）

佐賀大学　所属　　教育学部

氏名　　吉村　圭

sx4958@cc.saga-u.ac.jp

内容

1. 教育の責任 1
   1.1 担当授業科目 1
   1.2 その他の教育活動 2
2. 教育の理念 2
   2.1 目的１：深い教養を身に付けた学生の育成 3
   2.2 目的２：作品を批判的に見る力を持つ学生の育成 3
   2.3 目的３：発見を人に伝える力を持つ学生の育成 4
3. 教育の方法 4
   3.1 目的１「深い教養」を達成するために 4
   3.2 目的２「批判的に見る力」を達成するために 5
   3.3 目的３「人に伝える力」を達成するために 5
4. 教育の成果・評価 6
   4.1 「深い教養」に関する成果 6
   4.2 「批判的に見る力」に関する成果 6
   4.3 「人に伝える力」に関する成果 7
5. 今後の目標 8
   5.1 短期目標 8
   5.2 長期目標 9
6. 添付資料・参考資料 9

1. 教育の責任

私は 2023 年 2 月に佐賀大学教育学部に着任し、主に英語科の専門科目「英語文学」分野において講義を担当している。主な担当科目は「英語文学論I・II」「英語文学演習I・II」「英語文学講読II・III」であり、その他に卒業論文指導を行う「卒業研究」、プレゼミを実施する「小中連携教育学」「小中連携教育内容研究」（令和 7 年度より「小中連携教育研究」に統合）を担当している。また学部教員で交代で担当する科目として、数年に一度「教職実践演習」と「大学入門科目」を担当している。

1.1 担当授業科目【添付資料(1)】

佐賀大学着任以降の担当科目は下記の通りである。

科目名・ 科目コード	対象学年	種別・特徴 ・期間	開講年度 ・学期	受講 者数
英語文学論I C0709310	学部 3 年生	専門、必修、半期	2023-2024 （前期）	20 名
英語文学論II C0709360	学部 3 年生	専門、選択、半期	2023-2024 （後期）	5 名
英語文学演習I C0709340	学部 2 年生	専門、選択、半期	2023-2024 （後期）	15 名
英語文学演習II C0709350	学部 3 年生	専門、選択、半期	2023-2024 （前期）	5 名
英語文学講読II C0709330	学部 1 年生	専門、選択、半期	2023-2024 （後期）	20 名
英語文学講読III C0709370	学部 2 年生	専門、選択、半期	2023-2024 （後期）	10 名
小中連携教育学 C0107000	学部 3 年生	専門、必修、半期、プレゼミ	2023-2024 （前期）	8 名
小中連携教育内容研究 C0106000	学部 2 年生	専門、必修、半期、オムニバス(5 回/15 回中)	2023 （後期）	20 名
教育実践フィールド演習II C0302000	学部 2 年生	専門、必修、半期	2023 （後期）	20 名
教職実践演習 C0432000	学部 4 年生	専門、必修、半期	2023 （後期）	30 名
大学入門科目I G1110001	学部 1 年生	教養、必修、半期	2024 （前期）	30 名

卒業研究	学部4先生	専門、必修、通年、ゼミ	2024 （ 通年）	6 名

1.2 その他の教育活動

(1)学生面談

・半期ごとのチューター面談の他、学生からの進路相談や研究に関する相談など、年間延べ 50 件以上（各 30 分- 1 時間程度）実施している。

(2)ジョイントセミナー・高校への出前講義

・以下の通り、文学作品における人種差別表象について高校において出前講義を行った。

年月日	高校名	テーマ	対象・人数
2024 年 10 月 21 日 (15:15-16:05)	佐賀県立佐賀西高等学校	第 1 学年 学問研究講座（英語圏児童文学）	高校 1 年生約 40 名

(3)講演会

・以下の通り、イギリス児童文学作品と作家の平和思想について講演した。

年月日	主催	テーマ	対象・人数
2024 年 6 月 22 日 (14:00-15:30)	基山町立図書館・きーの読書会	イギリス児童文学講演会	一般・約 30 名
2025 年 1 月 25 日 (9:00-12:00)	ころころ保育園、保育園父母会	平和と児童文学とディズニー講演会	一般・約 50 名

2. 教育の理念

私の教育理念は、**「文学作品を通じて多様な文化と価値観を理解し、批判的かつ柔軟な思考力を身につけ、それらの学びを周囲にわかりやすく伝え、社会に貢献できる人材を育てること」**である。

この目標を実現するために、(1) 深い教養を育む、(2) 作品を批判的に見る力を培う、(3) 発見を他者に伝える力を養う、という 3 つの教育目標を設定している。これらは互いに独立したものではなく、

作品を多角的に味わう→その背景に潜む社会的問題を見極める→気づきを発信する

という学習プロセスを通じて相互に結びつきながら深まると考えている。

グローバル・情報社会の中で変化の激しい課題に対応する力として、「多様な文化・価値観を理解する姿勢」「批判的かつ柔軟な思考力」「学びを他者と共有し、社会的合意をつくるコミュニケーション力」が求められる。文学作品はそうした能力を育むうえで、他者を追体験し社会問題を検討する“最適な入り口”となりやすい。教師をめざす学生にとっては、自分の教科指導だけでなく、人権教育・多文化教育にもつなげられる。結果

として、個々の学生が社会の課題解決や教育現場の改善に寄与し、自らのキャリアを豊かにしながら公共の利益をも実現できる人材となる。

また、文学研究の醍醐味は、作品を多面的・批判的に読むことで思わぬ「発見」が得られる点にある。その発見こそが文学を学ぶ喜びであり、私は講義を通じて、学生にもこの喜びを体験してほしいと考えている。そして、その発見を自分の言葉で他者に伝える力を身につけることで、将来自らの児童・生徒にも文学の魅力を伝えられる人材になってほしいと願っている。

2.1 目的１：深い教養を身に付けた学生の育成

ここでいう「深い教養」とは、単に作品を読んだ（見た）という事実だけではなく、作品の背後にある時代背景や社会・文化、宗教などを幅広く理解したうえで、多角的に作品の意味を捉えられる力を指す。たとえば Charles Dickens の『クリスマス・キャロル』や C. S. Lewis の『ナルニア国物語』にはキリスト教聖書の知識が求められ、A. A. Milne の『クマのプーさん』も第一次大戦期という社会状況や作家の伝記的背景を踏まえると、物語の魅力が一層深まる。

このような背景知識を積み重ねることで、読み手は作品を多面的に見ることができるようになり、そこから思いがけない発見を得る機会が増すと考えている。つまり、「深い教養」の獲得が、新たな角度から作品を理解するための土台となるのである。そのため私は講義を通して、受講生たちにこうした「作品をより多面的に味わう楽しさ」や「自分なりの発見を得る喜び」を体験してほしいと考えている。

2.2 目的２：作品を批判的に見る力を持つ学生の育成

文学研究には、作品に内包されるジェンダーや人種差別といった現代的な問題を論証するという重要な側面がある。たとえば Roald Dahl の『チョコレート工場の秘密』に登場する Oompa-Loompas は、外国から奴隷貿易のように「密輸」され、奴隷的労働を強いられる存在として描かれている。J. M. Barrie の『ピーターパン』では、「インディアン」たちが残忍かつ野蛮で不可解な存在として表象され、J. K. Rowling の『ハリー・ポッター』では、現実の社会における人種や階級の差別が「魔法使い」と「マグル」の対立としてパロディ化されている。

こうした差別表象に注目しながら作品を読解することで、単に物語を読むだけでは見えてこない新たな側面が明らかになる。それこそが文学研究の醍醐味であり、私は受講生たちにその衝撃を体験してほしいと考えている。

また、批判的に作品を読むことで、学生たちは現実社会におけるジェンダーや人種差別などの問題について考えを深めることができる。これは本学教育学部のディプロマ・ポリシーにある「多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力」や「自己と同時に他者の立場に立って物事を考える力」の達成にも寄与すると考えている。

2.3 目的３：発見を人に伝える力を持つ学生の育成

以上の 2 つの理念を通じて、受講生には作品から「発見」を得る力を身に付けてほしいと考えている。そして最も大切なのは、その発見を学生個人の学びの中で終わらせるのではなく、他者に伝える力を伸ばすことである。

特に私の講義を受ける学生の多くは、将来小中学校の教師をめざしている。したがって、彼らが教師になった際には、作品の背景にある歴史・文化的事項や異文化圏の「他者」を理解する意義を、児童・生徒に適切に伝えることが求められると考えている。具体的には、作品の中で描かれる文化・社会問題や、差別・偏見の構造、登場人物の心理などを子どもたちの学習段階に応じてわかりやすく語り、共に考える場を作ることである。

そのためには、授業や日常の教育活動において、英語文学作品の具体的なエピソードや登場人物の言動を例として取り上げ、子どもたちに多様な価値観や社会のあり方を伝える力を身につけておく必要がある。たとえば、「この登場人物の行動はなぜ問題なのか」「この物語の背景にはどんな歴史的な出来事があるのか」といった問いを通して、児童・生徒の思考を促すことができる教師になってほしいと願っている。

このように、英語文学作品を通じて得た気づきや教養を「自分の言葉」で子どもたちに伝えられる力こそが、教師としての指導力やコミュニケーション力の基盤になると考えている。

3. 教育の方法

以上の理念を踏まえて、私が担当する科目では以下の内容を実践している。

3.1 目的１「深い教養」を達成するために

(1) 授業スライド、関連資料の作成

すべての講義においてスライドを作成し、必要に応じて参考資料となる画像や映像を投影している【参考資料(2)】。また毎時間、両面２枚程度の印刷資料を配布し、英文の載った読解用資料と関連する参考資料を添付している。例えば、『ナルニア国物語』を題材にした際には、キリスト教聖書と作品の描写との関連性を明確にするために、作品の読解用英文と、その場面の元となるキリスト教聖書の場面を抜粋し配布した【参考資料(3)】。

(2) 映像化作品や関連する映像作品の活用

文学作品に限らず、映画も積極的に活用している。映画の利用には、文学作品のあらすじをわかりやすく提示するという利点があるが、それ以上に、学生にとって身近な作品が実は古典文学の影響を受けていることを示す効果がある。例えば、ディズニー映画『ライオン・キング』では、挿入歌「Hakuna Matata」に William Shakespeare の『ロミオ

とジュリエット』の台詞が引用されており、また物語全体が『ハムレット』をモデルにしている。このように、文学作品とポピュラーカルチャーのつながりを示すことで、学生が古典作品を単なる過去のものとしてではなく、現代の作品と関連づけながら理解できるようになることを期待している【参考資料(4)】。

3.2 目的２「批判的に見る力」を達成するために

(1) 映像化作品や関連する映像作品の活用

3.1 でも述べたように、映像化作品は、単なるあらすじ理解にとどまらず、文学の批判的読解において重要な視点を提供する。文学作品の映像化（アダプテーション）において、映像の制作者は原作の問題点を意識的に改変することが多い。例えば、『チョコレート工場の秘密』に登場する Oompa-Loompas の人種差別的描写は、Dahl 自身が脚本を担当した映画『夢のチョコレート工場』では削除された。一方、Tim Burton 監督の『チャーリーとチョコレート工場』は、彼らの奴隷的な扱いを強調することで、視聴者にその問題点を明確に提示している。このように、映像作品の改変を分析することで、文学作品に内在する問題点を浮き彫りにすることができる。そのため、私の講義では原作と映像化作品の比較を積極的に行っている【参考資料(4)】。

(2) 映画を題材にした人種問題に関するプレゼンテーション

「英語文学演習I」では『チョコレート工場の秘密』を人種差別・植民地主義の観点から解説する講義を行った。しかし文学作品だけではなく、実はポピュラーカルチャーも同様に批判的視点で臨めることを体験させるために、ディズニー映画を人種差別の観点から論じるグループプレゼンテーションを最終課題とした。【参考資料(5)】

3.3 目的３「人に伝える力」を達成するために

英語文学の評価方法として従来はレポート提出を採用していたが、教員と学生個人間のやりとりに留まりがちであった。そこで、発信型の課題を導入し、学生が自らの考えを他者に伝える力を育成できるよう工夫している。

(1) グループプレゼンテーション

「英語文学演習Ⅰ」では、ディズニー映画を題材に、植民地主義や人種差別の観点からグループプレゼンテーションを行うことを最終課題とした。プレゼンを作成する過程で、学生たちはグループ内で意見を出し合い、発表を通じて自らの考えを発信した。レポート形式よりも、他者に伝える力を養う機会となったと考えている。

(2) 学生によるリーディング教材作成

「英語文学論Ⅱ」「英語文学講読Ⅲ」では、英語文学を用いたリーディング教材の作成を最終課題とした。学生は自ら選んだ文学作品をもとに、実際に「英語文学講読Ⅱ」（学部 1 年生科目）で使用することを想定し、英文読解用資料と先行研究の補足資料を含む 4 ページ程度の教材を作成した。その際、英語表現のみに着目するのではなく、授

業で学んだ批評理論（フェミニズムやポストコロニアリズムなど）を基準に先行研究を調査し、読解箇所を選定するよう指導した。また、完成した教材を発表する機会を設け、受講生同士で意見を交換し合う場を提供した【参考資料(6)】。

4. 教育の成果・評価

教育目的として掲げた「深い教養」「批判的に見る力」「人に伝える力」の三点について、学生たちの作成物（リーディング教材・プレゼン用スライド）【参考資料(5)(6)】および振り返りシートに記載されたコメント【参考資料(7)(8)】を基に、その成果を以下に示す。また、抜粋した学生コメントからは、課題を通じて新たな「発見」をし、それを「喜び」として感じている様子も伺える。

4.1 「深い教養」に関する成果

学生たちは授業を通じて特定のテーマについて深く学び、それを教材やスライドに反映させることで、知識を整理し、理解を深めた。例えば、Daniel Defoe の『ロビンソン・クルーソー』とキリスト教の関係性を考察した教材や、Jane Austen の『高慢と偏見』と当時の結婚制度を関連づけた教材では、先行研究の調査をもとに歴史的背景や思想的側面を考察しており、単なる表面的な理解にとどまらない学びの成果が見られた。

【学生作成リーディング教材】

・『ロビンソン・クルーソー』とキリスト教に関するリーディング教材

作成した学生のコメント：

> 「『ロビンソン・クルーソー』では、『救世主』というテーマのもと、キリスト教が比較的多く扱われているように感じた。作品を深く読み込むことで、キリスト教の影響（今回紹介した一つ目の注目ポイント等）がより明確に理解できた。この経験を通じて、文学作品を扱う授業では、作品を多角的に捉えることが重要であり、その視点を生徒・学生に伝えられると感じた。」（C0709370, 2024 年後期）

・『高慢と偏見』と結婚制度に関するリーディング教材

作成した学生のコメント：

> 「当時の結婚は、単に愛情によるもではなく、『経済的に豊かになるための手段』という考えが色濃く反映されていると気づいた。もちろん、相手がハンサムかどうかといった点も結婚の判断基準の一つではあるが、それ以上に『食いっぱぐれないために、できるだけ早く結婚する必要がある』という社会的背景が見て取れた。」（C0709360, 2024 年後期）

4.2 「批判的に見る力」に関する成果

教材作成やプレゼンテーションを通じて、学生たちは単なる知識の習得にとどまらず、

情報を多角的に分析し、批判的視点を養うことができた。特に 2024 年後期「英語文学演習Ⅰ」でのプレゼンテーションではディズニー映画を人種差別の観点から考察する課題を設定し、学生たちは単なる受動的な理解にとどまらず、グループでの議論を通じて自らの考えを深め、論理的に主張を展開する力を育んだ。

【プレゼン用スライド】

・「Aladdin～アニメと実写の比較を通して～」

本プレゼンテーションを実施したグループは、①東洋への偏見・差別、②階級差別、③ジェンダー、④女性像の変化の 4 観点から、1992 年のアニメーション作品と 2019 年の実写化作品の比較を行った。それぞれの作品が制作された時代の人種、ジェンダー観の相違が示された。

実施した学生のコメント：

「作品の考察を通して、アニメ版「アラジン」が内包する問題点として、アラブに対する偏見やジェンダーバイアスが中心であることがわかった。また、多様性という観点から見ると、アニメ版において女性の登場人物はジャスミンのみであり、さらに、身分が高い人のみに焦点が当てられていることがわかった。多様な身分の人がいて、地位が高い人もそうでない人にも同じように人生があり、実写版では地位の低い人の人生にもスポットライトが当てられていたことが印象的だった。」（C0709340, 2024 年後期）

「今まで、ディズニーは何作品か見たことはあったけど、ポストコロニアル的な視点を持って見るということはしたことがなかった。ディズニー映画をただ描かれているストーリーだけそのまま見ているとちょっと不思議だけど、イラストもかわいらしく楽しい映画のように感じる。しかし、視点をちょっと変えてみるだけで偏見が見えてきたり、差別、ジェンダー問題などが見えたり、いろんな見方ができた。少しの違和感や疑問を大切に論文や作品の背景などと照らし合わせてみると、自分でもポストコロニアル的に見ることができ、一つ見つけるとどんどん見えてきて面白くなっていた。」（C0709340, 2024 年後期）

発表を見た学生のコメント：

「さまざまなシーンからアラブへの偏見と思われるものがあげられており、何も考えずにふつうにみていたら気づかないことであるが、考えながら見たらきづくことがたくさんあり、これはわたしたちが教師になって児童生徒のトラブルを見抜くときに必要になる力だと考えた。」（C0709340, 2024 年後期）

4.3 「人に伝える力」に関する成果

学生たちは、作成した教材やプレゼンテーションを通じて、情報を整理し、他者に分かりやすく伝える力を向上させた。特に教材作成においては、受講者を意識した工夫が

多く見られ、それが学生のコメントにも反映されている。

【教材作成に関する学生コメント】

「まず『赤毛のアン』という作品を読んだことがない人のために、あらすじや登場人物など簡単な作品紹介を資料に入れたことです。また、語彙［のレベルは］大学1年生レベルを想定しているので、私自身でも分からないような単語のみに語注をつけて読めるようにしました。さらに、レイアウトや原文抜粋の際、対訳をつけたり、読ませたい必要最低限の部分だけ訳させるなどの工夫をしました。」（C0709370, 2024 年後期）

「大学一年生を対象とするので大体英検準一級くらいのレベルになるように語注をつけました。また、昔の単語が使われていた部分も多くあったので、そこにも語注をつけています。あくまで、学生が主体となって解けるように作りました。…中略…興味・関心を引き出す作品の選出です。ロミオとジュリエットの作品は、私も「知っているようで知らない」作品でだからこそ興味が湧くと思い、この作品を選びました。自分が思っていたところと違ったり、なるほどと思うことがあったりと学生目線に立ってわくわくするようなレジュメを作りたくて作品選びを行いました。」（C0709370, 2024 年後期）

【プレゼンテーションに関する学生コメント】

「グループで１つの作品について見ていく中で、自分の気づいていないことには、他のメンバーが気づいていたり、問題と思っていなかった点に関して、他のメンバーは問題だと思っていたりして、自分ひとりでせずにグループでメンバーと協力したからこそ、得ることができた観点や気付きが多かったと思う。」（C0709340, 2024 年後期）

5. 今後の目標

本ティーチングポートフォリオ（以下「TP」）の作成を通じて、自身の教育理念が「文学作品を通じて多様な文化と価値観を理解し、批判的かつ柔軟な思考力を身につけ、それらの学びを周囲にわかりやすく伝え、社会に貢献できる人材を育てること」であることが明確になった。その実現のために、(1) 深い教養を育む、(2) 作品を批判的に見る力を培う、(3) 発見を他者に伝える力を養う、という 3 つの教育目標を掲げ、日々の実践に取り組んできた。

今後は、これらの教育理念をより充実させるために、以下の短期目標と長期目標を設定し、さらなる教育の発展を目指したい。

5.1 短期目標

(1) 教材作成課題の体系化

現在、教材作成課題は２年生後期「英語文学講読III」と３年生後期「英語文学II」において試行している。今後は、この手法を他の科目にも導入し、１年次から３年次までの一貫したカリキュラムとして体系化することで、段階的なスキル向上を促す仕組みを構築したい。

(2) プレゼンテーション機会の拡充

学外での発表機会を増やし、他大学との交流を促進する。特に、令和８年度より熊本大学との共同課程が開始されるため、この機会を活用し、学生が異なる環境で発表し、フィードバックを受ける場を設けたい。

(3) 教育成果の根拠資料の収集・整理

本 TP 作成にあたり、教育活動の成果を裏付ける根拠資料の不足を課題として認識した。特に、授業評価アンケートの回答率が低く、客観的な評価データとしての活用が難しい状況である。例えば、最も受講者数の多い「英語文学論I」においても、2023 年度は 24 名中 13 名、2024 年度は 18 名中 8 名の回答にとどまった。今後は、授業中に記入時間を設けるなど、回答率を向上させる工夫を行い、授業改善のためのデータを蓄積していく。

5.2 長期目標

(1) ゼミ生との共同研究の推進

現在担当している「卒業研究」（ゼミ）では、英語文学と映画に関する研究指導を行っている。長期的な目標として、ゼミ生と共同で学会発表を行い、学生の研究成果を社会に発信できる環境を整備したい。そのために、学生の研究テーマ設定の支援を強化し、学部生でも学会発表が可能となるような指導体制の構築を目指す。ただし、教育学部では４年次前期に教員採用試験と教育実習の準備、夏季休業期間は教育実習と重なるため、その時期に十分な研究を実施させることは難しい。これに対応するため、ゼミが正式に始まる前の３年次後期を活用し、テーマ設定や研究の準備を早期に進める体制を検討していきたい。

(2) ゼミ卒業生（現職小中学校教員等）との研究協力の構築

私のゼミの卒業生の多くは、小・中学校の教員として活躍するほか、一般企業でも教育関連の業種に就くことが多い。彼らは、教育実践を通じて得られる知見や課題意識を共有できる貴重な存在となることが期待される。今年度、一期生を輩出したばかりだが、こうした卒業生と継続的に連携し、教育現場に即した文学研究を進める仕組みを構築したい。

6. 添付資料・参考資料

(1) オンラインシラバス
(2) 授業用スライド

(3) 授業配布資料
(4) 授業で活用した映像
(5) 学生が作成したスライド
(6) 学生が作成した教材
(7) プレゼンふりかえりシート
(8) 教材作成ふりかえりシート